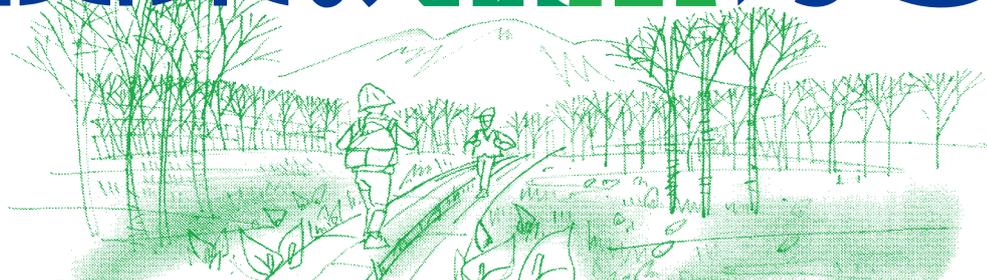


平成20年1月1日

第46号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



富士山（駿河湾より望む）

（撮影：伊豆森林管理署 佐藤 修氏）

特集 … 森林ボランティアと企業CSRについて  
指導普及課

私の視点 「森と観光と温泉」

環境省自然公園指導員

草津の自然を愛する会事務局長

草津森林療法協議会会長 山口 昭夫氏

森林官からのおたより

福島森林管理署 白河支署 蓬田森林事務所

森林官 南 直貴

# 年頭所感

関東森林管理局長 笹谷 香光



新年、明けましておめでとうございませう。

皆様におかれましては、平素より、関東森林管理局をはじめ国有林野事業の業務運営につきまして格別のご理解とご協力をいただいているところであり、改めて厚くお礼申し上げます。

近年の林業・木材産業を取り巻く状況は、国産材について依然木材価格は低水準にあるものの、原油高、外材入荷量減少などにより北関東周辺においては、国産材の材価回復の兆しが見えつつあり、国産材の利用拡大に向け木材の安定供給の推進が重要となっておりま

一方、森林に対する国民の要請は、木材の生産のみならず、水源のかん養や国土の保全、更には、地球温暖化防止など多様化しております。

このような中、政府一体となつて「美しい森林づくり推進国民運動」を展開しているところですが、関東森林管理局におきましても、地球温暖化防止森林吸収源対策を踏まえ、間伐をはじめとした森林整備や治山・林道工事等の各施設における木材利用の需要拡大に向けた取組の推進、さらには低コスト路網整備と高性能林業機械の組み合わせによるトータルコストの縮減等効率的な作業システムの普及定着を図っているところであります。

また、先の新潟県中越地震の被災地において、平成十七年度から引き続き直轄地すべり防止事業を実施しているほか、山地災害危険地区の再点検による危険地の的確

な把握や治山事業連絡調整会議の定期的な開催等を通じた民有林関係者との情報共有や一体的な事業の実施に向けた調整、山地災害発生時における迅速な情報交換等を図ってまいります。

更には、貴重な自然環境の保全・管理を推進する観点から、保護林の設定や希少野生動物植物の生息・生育状況の把握等を進めているところであります。このほか、国民参加の森づくりを進めるため「遊々の森」・「ボランティアの森」等のフィールド提供やNPOと連携した森林教室・林業体験活動を通じ、森林環境教育を推進しております。

当局といたしましては、国有林野の有する特性を活かしつつ、引き続き民有林の関係者との一層の連携を図り、流域管理の推進、木材の安定供給や国民の森としての森林環境教育の支援などを推進して参る所存でありますので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(山梨県本栖湖)



# 賀正



(群馬県横手山)

# 森林ボランティア活動について

## 指導普及課

### 企業が参加する森林(もり)づくり

関東森林管理局では、「ボランティアの森」等をはじめとする制度によりフィールドを提供し、協定を結ぶ方式による国民参加の森林づくり活動を積極的に支援しています。

フィールド提供は、5年を基本とした期間で、企業、NPO団体、市町村及び教育関係機関と森林管理署等が協定を締結し、国有林を森林環境教育や森林整備・保全活動の場として活用できるもので、管内に、既に90箇所が設定されています。

企業が社会貢献の一環(CSR活動)として行う森林整備・保全活動に取り組み動きが益々盛んになる中、平成18年9月に新たな森林・林業基本計画が策定されるとともに、平成



CSR活動による植樹の様子

19年2月には関係閣僚会合において、「美しい森林づくり推進国民運動」を政府一体となって展開していくこととされ、企業をはじめ国民参加の森林づくりの推進が求められています。

このような中、関東森林管理局においては、市町村等と連携しながら、社員、NPO団体及び子供たちをはじめ地域住民が参加する森林づくり活動を企画する企業への国有林フィールド提供を推進していきます。

CSR活動の推進を検討する機会がございましたら、国有林を選択肢の一つとしてご検討ください。

ここで、企業参加の森林づくり事例をご紹介します。

### 「オークネットの森」

**関係企業** 株式会社オークネット  
**設定時期** 平成19年3月30日  
**所在地** 千葉県木更津市下郡に所在する国有林内  
**面積** 約4ヘクタール  
**名称** 「オークネットの森」

**【概要】**  
 この森林は、千葉森林管理事務所と(社)国土緑化推進機構との間でボランティアの森(「オークネットの森」として設定されました。



オークネットの森に参加した皆さん

「オークネットの森」は「緑の募金」を活用し、(株)オークネットの社員及びその関連企業の参加を得て、千葉森林管理事務所管内の退職者で結成した「林退協千葉支部」の指導のもとに、「地球温暖化防止と花粉の少ない森林づくり」を目的として、保育間伐、つる切等の森林整備と、森林教室を行うこととしています。

4月8日には、総勢50名(社員約30名・指導者12名)で記念式典、記念植樹(無花粉スギの植栽)、森林教室、保育間伐の必要性などの説明を受け、参加者全員で森林整備活動(保育間伐・つる切)を行いました。

この活動は、平成22年まで毎年一回行う計画です。

### 「民友の森」

関係企業 福島県民友新聞社

**設定時期** 平成16年5月14日  
**所在地** 福島県福島市に所在する国有林内

**面積** 約5ヘクタール  
**名称** 「民友の森」

### 【概要】

平成16年度から、福島市内の国有林に設定した遊々の森「民友の森」において、毎年六回程度、新聞による公募と地域の教育関係者との連携により、毎回、30〜50名が参加し、ハイキング、木炭の勉強会、木工教室、自然観察会、森林内のクリーン活動等多様な取組を実施しています。



民友の森での活動の様子

企業が参加する森林づくりの事例につきましては、関東森林管理局ホームページからご覧いただけます。

なお、フィールド提供などについてのお問い合わせは、関東森林管理局指導普及課までご連絡をいただきます。

(指導普及課)

# 赤谷プロジェクト 近況報告

赤谷プロジェクトは様々な研修の場としても活用されており、海外からの研修生も受け入れています。今秋は、3つの海外研修がありましたのでご紹介します。

## 1. JICA海外技術研修 「持続可能な森林経営の実 践活動促進Ⅱ研修」

9月には中南米、東南アジア、アフリカから11カ国11名の方々が研修に訪れました。

研修は赤谷センター職員から赤谷プロジェクトについて室内で講義を行い、その後、実際にエリア内を視察しながら具体的な活動について研修を行いました。

また、(財)日本自然保護協会の



JICA海外技術室内研修



いきもの村での現地研修

担当者からは日本における赤谷プロジェクトの位置付けや、生物多様性をめぐる日本の状況などの講義がありました。

この研修に参加された方々は政府職員や研究者、林業の専門家など、様々な立場の方ですが、皆さん自国に戻れば、その国の森林・林業を背負って立つ方々です。ここでの経験が何らかの形で生かされればと思います。

## 2. パナマ国別研修 「保護区管理」コース研修

11月には中米のパナマ国から国立パナマ大学の教授2名が来訪されました。パナマでは日本との協力で、国内の森林保護区における生物多様性保全のための研究・評価プロジェクトを住民参加型で行っています。

貧困地域の持続的な農業発展と生物多様性の保全について研究しており、赤谷プロジェクトの事例が直接は当てはまらないかもしれませんが、パナマでの住民参加型のプロジェクトは赤谷プロジェクトの3者協働の取組に相通じるところがあります。

また、地域住民への普及啓蒙という視点からは、赤谷プロジェクトの環境教育手法などと関係するところもあり、熱心に説明を聞かれています。



自然再生試験地で説明を受ける  
パナマ大学教授

## 3. 「アマゾン群馬の森」 JICA草の根技術協 力事業研修

12月7日(金)には群馬県環境森林部環境政策課からの要請で、ブラジル人2名の研修生を受け入れました。ブラジルのアマゾンに「アマゾン群馬の森」という群馬県からアマゾンに移住した方々(在北伯群馬県人会)で所有管理している森林があり、

この森林を地域の住民やNGOと連携して管理しようという取組を群馬県が支援しています。研修に訪れたのは、地元のNGO関係者と地元農家の2名です。若いブラジル人の2人でしたが、プロジェクトの運営資金についてや地域住民の参加についてなど真剣に話を聞いていました。



ブラジル人研修生と  
県職員

今年に合わせて13カ国15名の海外研修生が「赤谷の森」を訪れました。それぞれの国は日本と違った自然環境あるいは社会環境ではありますが、赤谷プロジェクトの取組が、何らかの形で自国での環境保全の取組に活かされればと期待しています。

また、海外研修生の受け入れを通じて、その同行者に対しても赤谷プロジェクトのことを伝えることができます。今後はこのような機会も重要ではないかと考えています。(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

# 各署便り

## 自然素材(アケビツル等)でお魚プレートを作る!

【吾妻署】草津町公民館と吾妻森林管理署では、今年も草津町民を対象にしたバスケットリを草津町公民館で開催しました。

参加した40名の皆さんは、講師の指導の下思い思いの作品作りに一生懸命取り組んでいました。

今年も、東京から谷川鶴子先生他3名の講師を迎えて、アケビのつるとアカツルを主な材料として、お魚プレート作りを実施しました。



お魚プレート作りを楽しむ参加者

このバスケットリは10年以上続いており、毎回変わった作品作りに挑戦することから人気があつて、参加

## 「相川小学校遊々の森」で学校林活動を実施

した皆さんからは、来年も是非開催していただきたいという声が出山ありました。(広報連絡官 関上辰弥)

【山梨所】平成19年11月28日(水)、甲府市立相川小学校の五年生66人が、当所管内の和田国有林「相川小学校遊々の森」で学校林活動を実施しました。

参加した児童は、森林インストラクターでネイチャーゲーム指導員の安藤義樹氏(ニックネーム・あんじい)の指導を受けながら、この夏にみんなで作製し、楽しく活動した「ダイナミックスペース」(森の秘密基地)の片付けを行った後、「落ち葉タイムリースクイズ」、「フィールドビンゴ」、「森の色あわせコンテスト」、「木でお昼ね」、「目かくしトレイル」など、色々なプログラム(ゲーム)を楽しみました。

最近の子ども達は、森で遊ぶ機会や木に登る機会も少ないためか、この日行ったゲームには、みんな目を輝かせ興味を持って取り組んでいました。

特に「木の気持ち(簡易木登り)」ゲームは、山仕事道具(スーパーステップ)を使って木に登り、一番上でシャボン玉を飛ばして風を目で確かめるものでしたが、初めのうちは怖



木登りも上手になりました

がつて、なかなか上まで登れない子どももいました。それでも、先生方の指導を受けながら頑張つてチャレンジしているうちに、ほとんどの子ども達がステップの一番高いところまで登れるようになり、中には2回、3回と登る子どももいました。

最後に子ども達は、協力して頂いたスタッフの方々に感謝の気持ちを込めて、お礼の挨拶をするともに、今日の活動の場となった森へのお礼も元気にしていました。

(広報連絡官 生方啓司)

## いわき産業祭に出展

【磐城署】11月3日(土) 4日(日)の二日間、「いわき産業祭」がいわき市内で開催され、当署は、「モックン」作りや「しおり」作りなどの木の枝や葉によるクラフトコーナーを出展しました。

好天にも恵まれ、子供からお年寄りまで1万6,000人が来場し、特に「モックン」作りには、二日間と

も訪れる小学生もいるほど人気がありました。

材料のサクラの樹皮は、茶色で光沢があつて美しいことから興味を引いたようです。

子供たちは、親に手伝ってもらいながら、自分だけの「モックン」を制作し、アクセサリとして首から掛けてもらい喜んでいました。

また、「しおり」作りは、女性の方に人気があり、気に入ったモミジ等の押葉を選んで、2枚・3枚と制作していました。

子供たちが木に直接触れる機会が少ない現在、産業祭への出展を通じて、僅かの時間を提供できたと考えており、今後とも、こうした森林環境教育に積極的に取り組んでいくこととされています。



「モックン」作りに夢中の子供たち

(流域管理調整官 大森喜一)



回収されたゴミの山

### 「国民の森林」で クリーン活動を実施

**日光署** 10月31日(水)、益子町内の県道山本・下大羽線沿線の国有林内で、益子町役場の協力を得て、「国民の森林」クリーン活動を実施しました。

この取組は、昨年から実施しているもので、今回は、益子町の職員6名、日光署6名の計12名が参加しました。約2時間の作業で集められた不法投棄されているゴミは、ビン・カンなどの不燃ゴミ290キログラム、可燃ゴミ120キログラムと合わせて410キログラム、軽トラック3台分にもなりました。ゴミの量が多く、今回で全部回収するまでには至りませんでした。引き続き回収を行っていくことを確認し作業を終了しました。

今後は、このような活動を、地元幅広い方々の協力を得ながら実施していきたいと考えています。

(業務課長 益子好恵)

### 中川国有林で 中学生が森林学習

**「埼玉所」** 12月6日(木)、秩父市荒川の中川国有林で森林体験を通して、自然の大切さを実感してもらおうと、市内高篠中学校の2年生72名による「森林学習」を行いました。

学習は、植林されているスギ30年生を列状に間伐(間引き)された箇所にかエデ、トチ、ヤマグリなど約150本の苗木を植樹しました。

また、ドングリの播種(実を播く)をNPO法人「秩父の環境を考える会」と、当所職員の指導により実行しました。

植樹も3年目となり、植樹箇所も林道から距離が遠くなり、傾斜も厳しい状況でしたが、三人一組になり、唐鍬を使い穴を掘り一本一本「立派な木に育ってほしい」との願いを込め丁寧に植えました。

また、シカ食害対策として一部にネットも設置しました。

この行事は、平成17年に秩父の環境を考える会と当所が協定を結び「針広混交林の森づくり」の事業として行われました。

今回で3回目となるもので、過去2回についても、市内中学生や農工科高校生による植樹を実施しました。



「立派に育ってほしい」との願いをこめて植樹

(広報連絡官 守谷 忍)

### 「桐生市・サントリー友好の森」 で体験林業等

**「群馬署」** 11月17日(土)、桐生市職員サントリー株式会社社員とそれぞれの家族及び地元林業関係者など総勢約100名が参加し、桐生市(旧黒保根村)にある「桐生市・サントリー友好の森」で、除伐・枝払いの体験林業や森林教室が行われました。

同友好の森は、平成19年2月に桐生市とサントリー株式会社と群馬森林管理署との三者による「多様な活動推進の森」の協定を締結し、本年度から活動が開始されました。

今回が初めての活動で、参加者は



楽しそうにノコを引く子供

9班に分かれ各リーダーの指示に従い、ノコの使い方などの指導を受けながら、ヒノキの人工林箇所、枯枝払いや除伐等の作業を行い、心地よい汗を流していました。

最後に、大間々林業社員がチェーンソーによる伐倒作業を実演すると、参加者は木の倒れる様子を見て「オー」と歓声をあげていました。

午後からは、3班に分かれ、同友好の森に隣接する「天然水の森 赤城(法人の森林)」内の遊歩道を歩きながら森林教室が行われ、森林インストラクターからの樹木名や由来等の話に参加者は熱心に聞き入っていました。参加者からは、口々に「来年も是非参加したい」との声が聞かれました。

当署としても、森林に対する理解を深めていただけるよう、技術指導など積極的に対応していくことにしています。(流域調整官 大滝芳廣)

# 美しい森林づくり

「美しい森林づくり」の基盤となる  
森林の道への整備

国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止をはじめとした森林の持つ多面的な機能を高度に発揮させるためには、国産材の利用を通じた適切な森林整備を進めていくことが必要です。

我が国の森林は、戦後、荒廃した国土の緑化のために先人たちが大変な努力を重ねて造り上げてきたものが、資源として充実してきているところでは、

これからの森林整備については、こうした森林が発揮している多面的な機能が国民の様々なニーズにさらに応えられるものとなるよう、長伐期化、針広混交林化、広葉樹林化なども含めた100年先を見据えた多様な森林づくりを推進していくための、よりきめ細かな施策の実施が求められています。

一方、こうした森林づくりを行ってきた林業は、国有林、民有林を問わず、外材との激しい競争、木材価格の低下やコストの増大などから、健全な森林を守り育てるための経営環境について大変厳しい状況に置か

れています。

このような状況が続く中、植えたあとに成長が進んできて次第に混み合ってきた森林の抜き伐りである「間伐」を一層進めていくためには、伐採作業や伐採した木材の搬出を効率よく行うことのできる高性能林業機械がスムーズに森の中に入っていくための林道や作業道といった「森林の道」を整備することが不可欠です。

また、林道や作業道などの森林内の路網は、林業生産コストを削減する重要な手段であるだけでなく、日常的に森林の見回りを行い、これに基づいてきめ細かな森林実施を行うためにも重要なものとなっています。

このため、「森林の道」は、今後我が国の森林整備を適切に推進し「美



完成した林道



間伐材を利用した道づくり

しい森林づくり」を行ってゆくための鍵となるものと言えるのです。

関東森林管理局では、このような森林づくりを進めるための基盤となる林道などの「森林の道」について、地形に適合し環境にも配慮した路線工法、工事期間となるよう設計の計画段階から十分に検討して整備を進めることとしています。

また、個別の工事にあたっては、木材を用いるところについては間伐材や、違法に伐採された木材ではないことが証明されている木材の製品を使用するよう施工者に対して求めるなど、全世界的に進められている「持続可能な森林経営」への取組にも対応しています。

さらに、林道や作業道といった言わば「幹」となる「森林の道」から、間伐などの個別の施策を行う森林内へ「枝葉」のように伸びていく細か

な作業路づくりについても、低コストでありながら丈夫で自然の中で安定して長く使えるものとするためのさらなる工夫を検討しています。

たとえば、簡易で安定した作業路づくりの先進地域である四国・四万十町から講師をお招きして、路線設計の考え方、具体的な工事の方法、手順などを学ぶ研修会を管内各地の森林で開催し、森林管理局関係者だけではなく各県の民有林行政担当者や林業、建設業関係者などとともに、実践的な技術の研さんを積むための取組を進めています。

関東森林管理局では、このような自然環境なども含めたそれぞれの森林の現場の状況にもっとも適合した「幹」「枝葉」の「森林の道」を適切に組み合わせた路網整備を引き続き着実に推進していくこととしています。  
(森林整備課)



作業道作りの研修会

# 森林官からのおたより

福島森林管理署 白河支署 蓬田森林事務所  
森林官 南 直貴

## 管内の紹介

私の勤務している森林事務所は、福島県南東部の阿武隈山系に位置し、須賀川市、平田村、玉川村にかかる約2,700鈔の国有林を管理しています。

管内には、山頂が約6,000平方メートルの芝生で覆われた『芝山森林公園』があり、休日は青空の下で自然を満喫しながらバーベキューや芋煮会をを楽しむ人で賑わっています。

また、北須川沿いに続く遊歩道をしばらく歩くと見えてくるのが高さ10メートル、落差約8メートルの『山鶏滝』です。険しい岩肌の上を流れ落ちる壮大な自然美は一見の価値があります。男滝、女滝があり、それぞれの趣を比べてみるのも一興。秋には紅葉も美しく、森林浴をするには最適な遊歩道となっています。

また、四季折々に様々な表情を見せて、自然の荘厳さを感じさせてくれる『東野の清流』や釣り人に人気の高い『母畑湖(千五沢ダム)』もあり豊富な水資源にも恵まれています。最近では、国有林を横断するよう

な形で福島空港と高速道路を結ぶ『あぶくま高原道路』の建設が進んでおり、完成予定の平成22年度には人の交流の活性化が予想されることから、今後は自然景観としての国有林の存在も期待されているところです。

## 美しい花のじゅうたん

東北百名山のひとつ『蓬田岳(標高952メートル)』は平田村のシンボルとされています。



ジュピアランドひらたと蓬田岳



憩いの場として有名な「東野の清流」の碑

登山道入口から山頂までは約1時間登ることができ、山頂からは東には太平洋、西には那須連峰を望むことができることから、村民はもちろん多くの登山家にも愛されています。

その麓にある自然公園『ジュピアランドひらた』は、キャンプ場やバーベキュー広場などのアウトドアが堪能できるほか、ソフトボール場やゲートボール場もありスポーツ交流の場としても充実した設備が整った施設となっています。

中でも代表される風景と言えば、春に咲き誇る11万株の芝桜。毎年4月下旬から5月末にかけて『ジュピアランド芝桜まつり』が開催されます。期間中7万人近い観光客が訪れています。一面がピンク、紅、白のじゅうたんとなり、訪れた観光客からは感嘆の声が聞かれます。

## 森林官として

森林官になり2年が過ぎようとしています。事務所には頼もしい基幹作業職員が2名いることから、チームワークを武器に現場の業務をこなしています。

また、事務所に住んでいるので近所の方々と新年会や花見をとおしてお酒を飲みながら交流を深めることも大事にしています。森林官は本当に地元に着した職務だと感じています。

山のために、そこに住む人のために、自分に何ができるのか日々考えながら仕事をしています。

自分の仕事が数十年後、数百年後に感謝して頂けるように、これからも勉強を続けながら仕事をしていきたいと思っています。



遊歩道にある山鶏滝

# 私の視点

## 「森と観光と温泉」

環境省自然公園指導員  
草津の自然を愛する会事務局長  
草津森林療法協議会会長

山口 昭夫

表題の三つが兼ね備わった観光地は全国にもそれほど多くないと思う。草津町は300年も前から全国に知られている温泉地だが、今注目されているものに、森の活用がある。その森と温泉について私見を少し述べてみたい。

### 1「森の大切さ」

いまさら私が言うまでもなく、森は「命の源」で、水資源の豊富さにおいて日本は世界でも類を見ないほ



白根山の湯釜

どに豊かだ。その森からは温泉も湧出しているのだが、草津温泉は温泉量の豊富さとその泉質の素晴らしさから、昔から多くの湯治客が絶えることは無い。

その温泉は、言うまでも無く「豊かな森」がもたらす地下水と、火山が近隣にあることで自噴量、日本一として「泉質主義・源泉かけ流し」を支えている。中でも有名な白根山は美しいエメラルドグリーンの色で知られる火口湖を持つ火山で観光スポットとして人気を博している。特に、私たちが注目してきた山が白根山である。

### 2「花の復元の山」

この本白根山には大きな火口がいくつもあり、中でも一番大きな中央火口周辺に高山植物の女王といわれる「コマクサ」が群落していたが、終戦後の乱獲によりその姿を消していた。

これを復元したいと今から40年前に孺恋村の干川文次氏と六合村の山口雄平氏の2人が復元を試みた。

昭和55年春から地元の中学生も参加して、地域一体となって壮大な復元作業が展開され、平成4年に見事に復元完了宣言がなされた。  
なお、現在でも中学生たちが保護活動を継続している。

### 3「森を楽しむ」

この「コマクサ」復元活動のひとつの遺産は、荒れていた本白根山の山が花で覆われ観光客の憧れの山になったこと、活動に係わった子供たちと父兄も含めて地域と一体となり「自然資源の大切さ」を多くの人が学んだことだと思ふ。

今、「癒しの森」という言葉が活発に交わされる時代となり、人々は森を愛し、森と親しみ、自らの健康を森に求めるようになった。  
そして今、私たちの町も「癒しの



コマクサ復元の設立総会

森」の勉強会が進み、多くの「草津癒しの森トレーナー」を養成している。



高山植物の女王「コマクサ」

### 4「森が癒す」

昔、気象学者の神山恵三氏が草津の森の素晴らしさに感動し、日本で初めてフィットンチッドを測定し草津と森林浴を紹介した。

ドイツの医師ベルツ博士は、草津温泉の素晴らしさを知り、「草津には無比の温泉と、最良の山の空気と、理想的な飲料水」があることを多くの人々に報じている。

つまり普段ここに住んでいる私たちが知らなくて、都会からここに来られた人々が草津の大自然に感激するのだが、今、私たちはこの地の自然をより大切にして未来に引き継ぎたいと改めて思ふ。

## 一枚の写真



最後の機関車購入記念  
(昭和27年4月撮影)

旧気田営林署部内に2路線あった内の1路線気多森林鉄道は、当時、静岡県周智郡春野町を流れる天竜川の支流気田川沿いの気田集落のはずれの篠原地区にあった篠原貯木場を起点とし、気田川に沿って、植田、勝坂を経て都沢に達する本線延長33キロメートルであった。

昭和8年から気多村森林組合(学校名、バス停など「気多」を使用している。)によって森林軌道の建設が始まり、昭和10年11月に篠原〜植田間4.1キロメートルが竣工した。

一方、東邦電力が倉柱に発電所を建設するにあたり昭和8年から植田〜倉柱間13.6キロメートルの資材運搬用軌道を敷設し、森林組合の軌道に接続した。

さらに、昭和14年帝室林野局名古屋支局がこれらを、森林組合からは買取、東邦電力からは、水利権の代償として譲り受け取得した。

倉柱から国有林に至る間は、昭和13年3月に起工し、昭和15年12月に竣工、本線延長30.1キロメートルとなった。

昭和24年〜26年にかけて3.1キロメートル延長され本線延長は、33キロメートルとなった。

この森林鉄道は、国有林材であるモミ、ツガ、ケヤキ、ブナ等の天然木の運搬を行う他、沿線に点在する集落との関わり合いも深く、勝坂、門桁地域の生活物資の輸送は、そのほとんどを森林鉄道に依存しており、住民も毎日

のように利用していた。

また、急病の場合などは、空トロリが客車に早変わりする等、森林鉄道の恩恵は大きく、地元住民の大きな支えになっていた。

また、昭和20年には本線から伊老沢に入る伊老沢支線4.0キロメートルを敷設した。

昭和28年に木製台車は鉄製に変わり、手動ブレーキは、エアブレーキに改良された。

昭和32年から機関車のガソリンエンジンは、ディーゼルエンジンに変わり、馬力アップするとともに、台車10両を連結した列車で能率を高めた。

当時、8両の機関車が活躍していた。加藤製作所1両、酒井工作所2両、協三工業5両のすべて4〜5トクラスの機関車を使用していた。

しかし、昭和34年になると事業実行の花形で、沿線の住民にも親しまれてきた森林鉄道も、新しい時代に向かって脱皮すべく自動車道へと改良されることとなり、約20年間活躍した森林鉄道は幕を閉じることになった。

(天竜署 広報連絡官 山本富夫)

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課

TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 210-1159